

## トピックス

## 《人間工学応用人体計測解析利用システム》公開普及説明会開催、盛況に終わる

——— 中小企業事業団 ———

中小企業事業団（東京都港区虎ノ門3丁目）では、特別研究開発事業の一つとして昭和58年より開発を進めてきた《人間工学応用人体計測解析利用システム》の開発を完了し、去る2月19日、川崎市内で公開普及説明会（講演会と実演）を実施した。

アパレル、履物、家具、児童乗り物等の製造業界は中小企業がほとんどで、設計者の経験や個性によって設計製作され、性能にレベル差があり、高品質、高付加価値製品を設計するために客観的な計測、評価方式の確立が望まれていた。本システムは同事業団がこの要請により開発したもので、これらのものに共通な人体に対するフィット性（着心地、履き心地、座り心地）、機能性等をデータによって評価し、消費者ニーズの高級化、多様化に対応し得るもの。

本システムは、短時間で高精度の計測ができ、応用範囲が極めて広い非接触三次元人体計測装置、被服・靴・椅子の設計、製造にあたって人体寸法と着用感、使用感を客観的なデータが得られ、それらの評価、検査、設計に利用可能な計測装置、および安全のために利用される幼児ダミーで構成されている。同事業団では、これらのシステムの計測装置については日本電気、共和電業、太陽計測、七彩に、設計評価法については関連工業組合などに委託した。

共和電業は、履物製品の内面計測装置および椅子の座面形状計測装置を受託し、開発に協力した。履物製品の内面計測装置は、センサ部を靴の中にセットすることにより、人が靴をはいたときと同一条件で、靴の内面寸法と接圧を16点同時に計測し、結果をCRTまたはプリンタへ出力する装置で、ひずみゲージ14点およびポテンシオメータ2点が組み込まれている。

また椅子の座面形状計測装置は、着座時の座面および背もたれの

形状、接圧、温度160点を同時に測定し、測定結果はプリンタ、プロッタなどで直ちに利用可能な形で得られる装置で、椅子の座面および背もたれにひずみゲージ式の形状センサ162点、接圧センサ28点、温度センサ6点がマトリックス状に取り付けられている。

同事業団では、61年以降各業界向けに順次商品化を行い、普及を図る計画である。

